

# 第4期科学技術基本計画及び科学技術イノベーション総合戦略 のフォローアップに係る調査について【概要】

資料3

## 目的

第4期科学技術基本計画及び科学技術イノベーション総合戦略のフォローアップにあたり、必要なデータの収集及び分析を行い、基本計画が掲げる目的に向けて、多様な取組がどのように進捗し、目的はどこまで達成されているか、欧米諸国等と比較した日本の科学技術イノベーションの現状はどうなっているのか、今後の課題は何か等を明らかにするとともに、次期基本計画の策定に活かしていく。

## 背景

- 科学技術イノベーション政策を効果的、効率的に推進するため、政策、施策等の達成目標を明確に設定した上で、進捗状況について適切にフォローアップを行い、政策等の見直し等に反映していくことが重要である。
- 平成23年度に策定された第4期科学技術基本計画については、平成26年度の早い時期に、中間フォローアップの結果をとりまとめ、次期科学技術基本計画の策定に活かすことが必要である。
- また、日本再興戦略において、今後5年以内に科学技術イノベーションランキング世界1位との目標を掲げたことを踏まえ、ランキング上位国との差異等を分析し、継続的に改革していくことが必要となっている。

## 調査内容

- 基本計画に基づく施策等の実施状況の把握及び進捗の分析
  - ・ 施策等の実施状況を把握し、目的達成に向けて活動が進捗しているかについて総合的に分析
- 科学技術イノベーションのパフォーマンスの国際比較分析
  - ・ 基本計画・総合戦略の目標に沿って、国際比較に必要な内外データを収集、ランキングを試算
  - ・ 日本の強み・弱みを明らかにするため、国際比較分析を実施
- 世界1位を達成するための課題、4期期間中や5期に向けた課題等を明確化

# 今後の基本計画等のフォローアップのあり方について

## (実施方針抜粋)

- 基本計画は、これまでの科学技術基本計画から大きく転換を図り、イノベーションの実現を掲げて様々な取組を推進している。この転換を着実に進め、科学技術イノベーションを実効あるものとするためには、基本計画のフォローアップもこれまでの在り方から転換していく必要がある。
- すなわち、これまでは科学技術の振興を主眼として、研究開発費の変化や研究開発の成果としての論文数や特許の数など、科学技術政策の資源投入(インプット)と結果(アウトプット)について重点的に情報が収集されてきた。今後は、科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造や、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造につながっていることを、資源投入及び結果と併せて効果(アウトカム)や間接的効果(インパクト)も含めて、総合的かつ客観的に明らかにする必要がある。
- また、科学技術イノベーションの創出は、日本を含む先進国だけでなく、新興国とも競争となっている。その中で5年以内に世界1位となるためには、現在の日本の立ち位置と、上位の国々と比較した日本の強み、弱みを詳しく分析し、対応策を明らかにしていく必要もある。

# 調査実施内容の詳細

## (実施方針抜粋)

### • 基本計画に基づく施策等の実施状況

- 基本計画に基づき実施されている施策に関連する既存の情報(実施機関、予算、これまで得られた成果、施策評価の結果等)を収集する。
- 基本計画に掲げられている目的に対して、複数の施策の進捗を踏まえ、目的達成に向けて活動が進捗しているかどうかを総合的に分析する。
- 総合戦略に掲げられた重点的課題については、より効果的に課題達成を図るため、既存情報に追加して収集すべき情報を整理し、収集・分析を行う。

### • 科学技術イノベーションのパフォーマンス

- 基本計画及び総合戦略に掲げられている目標に沿って、日本の科学技術イノベーションのパフォーマンスに関するデータとこれと比較可能な欧米・主要新興国のデータを収集する。
- 科学技術イノベーションランキングを構成する指標案を選定し、ランキングの試算を行う。
- 国際比較により日本の強み・弱みを明らかにする。また、これらに関連する主な国内外の取組に関する情報を収集し、特に強み・弱みの背景にある取組について試算したランキングの上位国との国際比較分析を行う。

### • まとめ

- 追加情報の収集・分析及び国際比較分析の結果を踏まえ、世界1位を達成するための課題、第4期期間中の2年で達成すべき課題案及び第5期基本計画に向けた課題案を整理する。
- 4期期間中の課題達成に必要な取組案と、基本計画終了後の事後評価における評価軸を明らかにする。